

# 1 自己評価結果

事業所番号	0671300259		
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会		
事業所名	グループホームみずほ		
所在地	上山市牧野字妻神1615		
自己評価作成日	令和3年 10月 15日	開設年月日	平成 18年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 3年 11月 10日	評価結果決定日	平成 3年 12月 2日

# (ユニット名 かえで )

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな地域の中で、地域住民と関わりながら、利用者の立場に立った尊厳ある生活が出来るよう支援している。コロナ禍の中、感染対策を図りながら利用者が安心して地域の中で暮らしていけるよう支援している。出来るだけ身体筋力を衰えないようにするため、毎日、笑いや楽しみを加えた軽体操や施設外周の散歩など行っている。また、趣味や活動、生活動作が継続できるよう、一人ひとりに沿ったプランを立て実施している。専門知識の向上、馴染みの関係性と安心ある接遇、居心地の良い環境づくりを目指し取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を職員が周知し共有するとともに、施設内や勤務表にも掲げている。年間計画や行事を企画する際は地域との交流も意識しながら組み入れている。尊厳を大切に、本人に寄り添い信頼できるケア・接遇を心掛け理念の実践に向け行動に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ禍で、年間計画は立てていたが、行事はほぼ中止となった。今まで継続し行ってきた活動(笹巻作りなど)は思い出しながらホーム内少人数での実施。窓から地域の方が農作業する姿や作物の成長を眺めて、地域の中で暮らしているという認識を味わった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支援活動委員会を通して、事業所内では地域の公民館で出前講座(ミュージックケア)を行ったが、コロナの影響もあり、認知症についての啓蒙活動はほとんど実施できなかった。年1回グループホームだよりを発行し、地域に日常の様子などお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し地区会長、民生委員、市職員、家族、利用者も参加し開催していたが、昨年度、今年度は、コロナの影響もあり書面での報告となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政より定期的にアンケート調査がある。必要時は連携を取り担当者と相談し協力体制を築いている。昨年度末には、コロナワクチンについての行政との情報提供に参加し情報収集を図った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人の研修では感染症対策の為、DVDによる視聴研修で行っている、委員会活動でも随時検討し、身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。スピーチロックについては職員間話し合い、接遇面においても特に気を付けていかなくてはと考えている。玄関の鍵は開け、センサーを設置し、外に出掛けたい時はいつでも職員が付き添えるよう努めている。現在身体拘束対象利用者はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎年法人で高齢者虐待防止等についての職員研修があり参加している。(今年度は、感染症予防対策の為、施設内研修はDVD視聴であり、全員参加できた)自分自身や他職員の言葉についてもお互い注意できるよう心掛けている。全体会議でも接遇や利用者のケアについての検討を行っており、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年法人で研修があり参加している。(日常生活自立支援事業や成年後見制度は利用者個々について、法人の相談員と連携しながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は事前に十分な時間をとり説明を行っている。また、不明な点や疑問などは確認し、後日でも丁寧に説明、対応し納得の上契約をして頂いている。退居の際も十分な話し合いの場を持ち、納得の上で退居されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や連絡を取る際は、必ず利用者の状態を話し家族の意向も聞いている。苦情を受け付ける意見箱の設置をしておき、苦情解決委員会で検討の仕組みがある。年1回の無記名家族アンケート実施している、結果は職員間で情報共有し迅速な対応に努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議での、職員の意見や提案を運営に反映し実践に結び付けている。職員とは年に2回面談の機会がある。年1回職員の意向調査と必要時施設長との個別面談も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備については、法人全体で継続的に検討している。安全衛生委員会で職場環境やメンタル面のサポートも厚くなっている。企業イクボス同盟に加入し、子育て・介護・家族の為などライフバランスを保ち働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の職員研修の機会は多く、人材育成に重視しており、階級別研修など、利用者に対してきちんと向き合える知識と良識を持った職員が育つような学びの場を作っている。実践者研修等には支援もあり、資格取得者も多い。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県、村山ブロックのGH連絡会に所属し、各種会議への参加、交換研修、新人研修、中堅研修に参加し、他施設職員との交流も深め職員のスキルアップに繋がるよう取り組んでいる。他施設職員との情報交換会をリモートで行い学ぶことができた。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は居宅からの紹介や情報の他、家族や本人の情報をもとに職員全員で共有し、本人・家族の安心を確保する為の関係づくりに努めている。環境の変化による心身の状態の変化に配慮し、本人の思いを聴き、信頼関係関係づくりや生活に馴染めるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	感染症予防対策の為、施設内見学が中止となった。出来るだけ情報が伝わるよう細やかに話し合い、家族・本人の意向を聞き、少しでも不安なく入居できるよう心掛けている。入居してからも面会時(状況に応じて窓越しや直接面会)、おたよりや電話連絡などで詳しく伝え情報の共有を図っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の生活相談員や居宅事業所のケアマネジャーなどと連携をとりながら、その時々に応じた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話での気づきや、アセスメントシートを活用し、本人のできる力を大切に、家事仕事やレクリエーション活動と一緒にやる事で、共に喜び、達成感を感じながら関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が限られている分、可能時は生活の様子を詳しく伝え、ご家族からも気軽に意見や要望が話せる等信頼関係が築けるよう努めている。家族と本人の関係を大切に、時には協力してもらいながら、本人を共に支えていく関係を築いている。本人の様子がより分かるようお便りに写真を入れて送付している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、感染症予防対策の為、対応が難しかった。昔からの馴染みを忘れないよう、家族との電話や面会(窓越し、ウェブ、直接面会など)で関係づくりを大切に、ドライブの際は、住んでいた地域を巡る等、馴染みの暮らしの継続が出来るよう努めている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りに配慮している。家事や余暇活動の際は、個々の人間関係に配慮して活動を楽しめるように工夫している。コミュニケーションがうまくできない利用者に対しては、職員が間に入りは橋渡しを行い関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が長期入院などで終了される方へ、居宅や病院と相談しながら本人・家族への次への支援に努めている。併設施設（特養）などへ移られた方についても、面会に出向いたり（今現在は難しいが）退所後も面会にも出向き関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人に生活・食などの楽しみや要望など話す機会を持ち、本人の意向が叶うよう心がけている。カンファレンス時にはセンター方式を活用し、本人の気持ちを汲み取り、ケアプランに繋げている。言葉に出来ない方には耳元でゆっくり話しながら表情を確認し、意に沿った暮らし方を提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用しながら、本人との会話や家族、担当のケアマネージャーに協力を得ながら情報を得ている。入居時には家族などに生活歴を記入してもらい活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方については1日の流れ(24時間シート)を作成、心身の状態、有する力等は心身のアセスメントシートにより把握し共有に努め、日々変化する状態は、介護経過記録に記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が主となり、家族の意向を聞きながら情報収集し原案を作り、ケアカンファレンス等でアイデアを出し合いケアプランに繋げている。今年度は家族を呼んでカンファレンスを行うことができなかったが、都度聞き取りを行い、意見や要望を確認し計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護経過記録・生活記録・申し送り表などで日々の様子を把握している。ケアプランの実践状況や気づき、本人の言葉の記入があるため、ケアプランを見直す際に活かされている。第3者が呼んでも理解できる言葉で表現し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域支援団体みずほの会を通して防災訓練など地域の協力を得ながら行っているが、今年度は感染症予防対策の為一緒に訓練は出来なかった。地域の美容室や理容室、医療機関を通して本人が安全で豊かな生活が送れるよう支援している。また、交流活動では、今後の課題を踏まえ検討が必要と思われる。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、在宅の医療機関の受診を継続している。通院の相談や報告などの連携をとり、必要時は職員が通院対応を行っている。また、協力病院の往診も受けている。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、看護師に状態の報告・連絡・相談を行っている。日々の利用者の健康観察を行い、適切な指示が受けられている。緊急時も看護師の判断を仰ぎ受診に繋ぎ記録に残している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院や協力病院の医療福祉相談員とその都度情報交換を行い、主治医とも相談しながら、早期退院や適切な入院治療に繋がるよう連携を図っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて情報収集を行い、ホームの会議においても学習会を開き職員の理解を深めている。看取りケアについては、2週間ごとカンファレンスを開催し、ご本人やご家族の意向を大切に、経過や対応など職員間で情報を共有している。医師・看護師とスムーズな連携が図れるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年に1度応急手当や初期対応・AEDの使い方など、場所の確認・使い方を見直し、実践力を高めている。緊急時は、マニュアル通り実践できるよう準備している。また、夜間帯の対応職員、看護師を毎日確認している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署や地域の方の協力を得て、夜間も含め防災訓練を実施していたが、今年度は感染症予防対策の為、地域の方と一緒にすることはできなかったが、利用者の安心・安全を守れるよう施設内訓練の実施(年2回)を行い、実施内容を書面で定期的に報告をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や申し送りの際に接遇に対する読み合わせを行っている。ホーム理念の「尊厳を大切にしながらともに支え合う」を心掛け、言葉やドアのノック等、ひとり一人の尊厳を大切にしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話せる雰囲気づくりやコミュニケーションをとるよう務め、本人の言葉や行動、表情には常に注意を払い、職員間で情報を共有できるようにしている。また自己決定や要望を尊重し無理強いしないように心がけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や生活ペースに合わせて、希望に添えるよう意見を聞きながら対応している。意思表示が困難な場合は、体調・表情・雰囲気などを見ながら個々に合わせ支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に気を配り、清潔で季節に合った衣類で過ごせるよう支援している。その際は、一緒に選ぶことへも意識し行っている。化粧の習慣がある方は継続し行えるよう支援している。家族と相談しながら白髪染めも行っている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策に配慮しながら食事作りや盛り付けや食器拭き・片付け等関わりを持ちながら一緒に行っている。一人ひとりに合った食形態に配慮し、ゆったりと食事が出来るように心がけている。献立作りも利用者の希望聞いたり、季節を感じる食事や、全国味めぐりを開催し食を楽しむ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄についてチェック表を用いて、経過記録に残し状態を把握し自立支援に繋げている。献立は業者の献立表を参考にして、栄養バランスが摂れ食べやすい食事になるよう心掛けている。栄養スクリーニングを半年に一度行い、栄養に関して評価している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士を配置し口腔ケアの指導を受け一日3回の歯磨き習慣を支援している。一人で出来る、声掛けで出来ている、一緒に行く、全介助等段階に応じて、一人ひとりに合った口腔ケアを毎食後行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行きたいというサインを見逃さず誘う事や定時に誘導するよう支援し、自力でトイレに行ける利用者にはさりげなく状況を聞いている。個々の排泄パターンを把握し、プライバシーや自尊心に配慮した声掛けを心掛けてトイレ誘導を行い、それぞれに合わせたパットを使用し支援を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分摂取量と軽運動を行い便秘予防に努めている。また、毎朝のオリーブオイル、オリゴ糖入りのヨーグルト、ヤクルトの提供、食物繊維の多い寒天ゼリーを摂取している。個々の排泄パターンに合わせて支援している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日やメンバーの設定は行わず、本人の希望や好み(温度・時間)等、一人ひとりの生活ペースと状態にあわせ、気持ちよく入浴して頂けるよう対応している。また、羞恥心や入浴時の心情に配慮しながら、清潔が保てるよう入浴を支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣をふまえ、家事、レク等の活動時間や休憩時間を考え対応している。コロナ禍の中、外出支援が難しくなったが、午前は歌や軽運動、午後は個別で出来るものを心がけ、安眠に繋げられるよう心掛けている。また、居室内の温度が快適であるよう努めている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬の一覧表の活用により理解できるようにしている。薬係を中心に薬の管理を行いその日の薬を準備する者、服薬をする者(名前・時間・個数・飲み込み確認)と人を変え複数回確認し誤薬がないよう努めている。受診の際は医師に状態を上申し、薬の変更がある場合は申し送り等職員間の共有を徹底している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力を生かした家事参加をお願いし、その都度感謝の言葉を伝えている。行事や余暇活動は皆が笑顔で楽しめるよう工夫しながら行っている、ケアプランに個々の役割や楽しみを盛り込み実施している。カンファレンスを活用しながら今をより良く生活できるよう支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度までは外出支援に力を入れていたが、感染症予防対策の為、積極的な外出はできなくなった。しかし、感染レベルに応じ、マニュアルに基づいて実施。その際は、少人数(1対1または1対2程度)で密集を避け、消毒や換気、マスクの着用など感染予防対策を取りながら、散歩やドライブを行い気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応しているが、自己所持での管理は難しくなっている。コロナ禍で一緒に買い物へ行く等の対応ができなかったが、職員が代行し管理と支払いを行っている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は本人に確認してもらい、必要があれば電話に直接出してもらっている。個別に希望があれば電話対応など行っている。年賀状を家族に送る支援もしている。個人で携帯電話を使用し直接家族と連絡をとっている方もいる。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症予防対策の為、席の配置を検討し、密集・密接・向きなど予防対策を行っている。ダイルームや廊下には、季節感のあるものを飾り、共用の空間は利用者同士のコミュニケーションがとれ、ゆっくり過ごせるよう配置を工夫している。また、お互いのプライバシーに配慮し、居心地の良い場所になるよう配慮している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染予防対策をとり席の配置を行っている。玄関前にベンチ、テレビの前や和室にソファを置き、DVDを見たり外を眺めたり、好きな時間を過ごせる空間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族と相談しながら居室作りをしている。また使い慣れた家具を持ち込み、自宅に近いように配置している。精神や身体状態、リスクにも配慮し、本人が使いやすいように対応している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に今出来る事が継続し行えるよう、衣類の出し入れはタンスに名称を貼ったり、一部トイレの表示や居室に名前を貼るなどし、安全に移動できるよう環境整備を行っている。トイレや廊下、浴室には手すりがあり、つかまれば出来る事(立ち上がりや立位の保持等)の支援につながっている。		